

2002.5月25日

扇ノ山 唐戸谷登山

天候・・・快晴

扇ノ山、上地川・唐戸谷遡行

標高差

620 m～1100 m

メンバー

石野美輝朗、大塚賢一、大倉康治、木倉博

装 備

沢靴、ウエットズボン、ゴアパドリング
ジャケット、マリングローブ、Climbing
ギア（ヘルメット、ハーネス、ピナ5ヶ、8
環、スリング大小、デイジー、ハーケン、
ハンマーetc）、ザック（軽登山靴、着替え
上下、靴下、水1L、ラーメン、バーナーetc）





巨大な雪渓

なんと、この扇ノ山はさすがに豪雪の山だけあってまだ巨大な雪渓が残っていた。木漏れ日を浴びてキラキラと輝きを増す極ウマの沢の水で喉を潤しながらの沢歩きは最高に楽しいものである。



久々の週末が夏日なのでシーカヤックで石野氏と赤穂にでも漕ぎ出そうかと思っていただけ、あまりに天気がいいので沢登りに変更する。姫路を5時に出発で戸倉峠を越えて唐戸谷に現地入りしたのが7時30分。藤の花がたわわに咲き誇り、新緑の中で装備変更。

早速の取り付きで私は体慣らしで岩にへばりつく、朝一番とあって思うように体が動かないがなんとか小さな滝をクリア、みんなは巻いて行く。続いて3m程の小滝でスローモーションでも見ているかのように大倉氏が見事に上半身からドボンッ！。昨日の酒がまだ残っているのか、朝の目ざめの冷水だ！。

しかし、この沢は面白いように色々な小さな滝があって退屈しない。8mの滝では石野氏が少々高巻きをしてくれてロープを出してへばりつきながらのセカンドでのチャレンジは面白かった。

この沢最大の滝は30mの大滝である、しかしリードでは危なっかしくてとても取り付く勇気もないのでここは無難に高巻きをする。再び沢への下降はロープを出して8環でクライムダウンだ。



30m大滝の手前で

途中で4つ程の枝谷と合流しているが地図をみれば問題ない。最後の枝谷を右へ折れるころにはあんなに流れていた大量の水は一体どこへ消えてしまったのか？、と言うほど無くなってしまふ、この枝谷は扇ノ山独特の細いU字になっており赤い土肌である。その沢をほんの100mほど行ったところで今度は左の涸れ沢に入り1100m地点でこの沢登りは終了となる。

すでに水枯れの状態で濡れ物を全部着替える。沢がなくなるとそこはまっすぐに伸びたブナ林である。氷ノ山のように視界もさえぎられるチシマ笹ではなく視界も広々として素

晴らしい庭園のようである。

1230mで河合谷林道に合流する。この時期は林道脇きにスズコが生えているので適当に採りながら山頂小屋に13時に着いた。

早速、このスズコを石野氏持参の焼き網で香ばしい臭いを周りに充満させながらもろみ味噌につけてビールのアテにする、言うまでもなく極ウマである。早速まわりのオバタリアン集団につままれてしまった。

帰りは中国自然歩道の稜線歩きで1時間ほどで車のところにドンピシャにたどり着いた。

PS.

今年最初の沢登りで、この唐戸谷はまた訪れたい沢である。もう少し水量が少なければ30mの大滝で遊べるかもしれない。